

環流



第184号 令和5年3月17日

<目次>

生徒の活動：西陵中学校……P1
 巻頭言：吉岡 智尋校長……P1
 研究推進校・団体研修発表会……P2
 第13次研究 公開検証授業会……P3
 教育研究所情報：
 令和4年度教育研究所の歩み……P4



【授業改善推進チームによる授業】↑
2年生家庭科（被服）の授業

【英語教育特別研修講座】↓
厚南中学校大塚謙二教諭による提案授業（1年生）



「わかる」「楽しい」授業を目指して

小樽市立西陵中学校長 吉岡 智尋



保護者や地域の方々など関係各位の協力のもと、40年ぶりに教育目標を改訂し、4月に制定した。今年度より「自ら学び 人とながり」とともに未来を創る」生徒の育成を目指し、様々な教育活動を通して実践を積み重ねている。教育目標の実現に向けて、生徒や保護者からは、特に「わかる」「楽しい」授業への要望が大きいため、教員による授業の工夫や改善は本校の大きな課題となっている。

今年度の取組として、ICT 端末を授業の中で有効に活用するためにミニ研修を数回実施した。デジタル教科書の活用について深く学ぶために厚真町立厚南中学校より大塚謙二教諭を招き、示範授業を参観した。また、令和の日本型学校教育や ICT 端末の具体的な活用例について後志教育局 遠藤直俊指導監より講話を頂き、全員で学ぶことができた。さらに「個別最適な学び」や「どの生徒にもわかりやすい授業」を構築するためには、ユニバーサルデザインの視点が不可欠であるとの共通認識のもと、小樽市教育委員会 永原朋宜主査より UD の視点を取り入れた「指示」「発問」「説明」など授業上で工夫すべき点について学ぶ機会を設けた。

まだまだ道半ばであるが、「わかる」「楽しい」授業の構築、そして教育目標の実現を目指し、これからも絶えず学び続ける教師集団を西陵中学校の先生と共に作っていききたい。

令和4年度 「調査研究活動事業研究指定校・団体研修発表会」

令和4年度調査研究活動事業「研究指定校・団体研修発表会」が令和5年1月13日(金)に実施されました。新型コロナウイルス感染症の影響により3年ぶりに集合型で行いました。各学校・団体の代表者が3分程度で研究内容や活動について発表を行い、お互いに共有することができました。各学校・団体の発表の主な趣旨等については次のとおりですが、詳細については研究集録という形で各学校等に配布されますのでご高覧ください。



学校・団体名	指定	発表の主な趣旨等
稲穂小学校	推進校	特別支援を意識した「教師のかかわり」「授業づくり」を徹底することで、支持的風土が醸成され、落ち着いた学級経営ができるようになった。
花園小学校	推進校	ICTの活用を図りつつ、「数学的な見方・考え方」を働かせる授業づくりと子どもの「数学的な見方・考え方」を育む教師の関わりについて取り組んだ。
潮見台小学校	推進校	身に付ける資質・能力を明確にして学習活動を展開するとともに、自分の考えを明確にし、他者との関わりの中から自分の考えを広げ、深め、他の教科に転用できる授業づくりを目指した。
山の手小学校	推進校	「自ら問いを持ち、学びをつなぐ力の育成」と「対話をつなぎ、学びを深化させる授業づくり」という2つの研究内容を設定し、公開研の他に全学級で授業を交流し合う交流授業を位置付けた。
銭函小学校	推進校	自分の考えをノートに書き、友達と学び合いながら高める子どもを育てることを目指し、ノートの使い方とChromebookの使い方の工夫等を行った。
高島小学校	推進校	子どもが主体的に学ぶ手立てや思考を表現する交流の手立てという視点で、中学校教諭による授業や大学教授による師範授業を通してChromebookの有効な活用に触れ、実践に取り入れようとした。
桂岡小学校	推進校	道の事業を活用した体育の授業改善と栄養教諭を中心とした食に関する指導を両輪に、研究を進めた。体育では、子どもが目標を持って取り組み、食育では「給食指導の要領」を作成し、系統立てた指導を行った。
菁園中学校	推進校	ルーブリック等を活用した具体的な学習評価や、効果的な見通し・振り返りの場面設定を入れることにより子どもの学びに向かう力を伸ばす研究を行った。
望洋台中学校	推進校	「導入」や「見通し・振り返り」などの工夫を行う研究を発展させ、スモールステップを取り入れたり、発問を工夫したりして、ユニバーサルデザインの視点に基づいて授業改善を目指してきた。
西陵中学校	推進校	「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業改善について重点的に推進し、授業のめあての掲示や振り返りの活動、身に付けた知識や技能を活用してできる「課題」の設定について確認し、全員で行った。
奥沢小学校	交流校	「学びを確かなものにし、考えを広げ深める対話的な学び」を重点に据え、対話をするための共通ルールや可視化による交流の活性化について研究を深めた。
望洋台小学校	交流校	子ども自身が学習したことを自覚できるように、効果的な振り返りの活動の在り方について研究を進めた。Chromebookの活用により児童の学習意欲の向上と効果的な意見交流を図ることができた。
北陵中学校	交流校	教職員の3 ACTION (A1 研究する～「徹底した授業改善と教材研究」、A2 指導する～「生徒のそばで、教え、導き、気付かせる指導」、A3 場をつくる～「生徒の経験値を高める場の設定」) を全員で取り組んだ。
小樽市算数数学教育会	推進団体	学習会や公開研を開催し、「主体的・対話的で深い学び」の具体について共通理解を図るとともに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるという視点での授業改善について研鑽を深めた。
小樽市社会科教育研究会	交流団体	目的意識をもって学習することを研究の重点とし、研究協議の開催や上部組織団体の研究大会等への参加を通して環流を行った。
小樽市複式教育研究会	交流団体	研究会を通して教職員の交流を図り、間接指導の中で子どもたちの中からリーダーを育て、学習の充実を図る取組について研究を進めた。
小樽市道徳教育研究会	交流団体	授業公開や参集する機会を増やしながら、道や後志の研究会等にも参加し、教材の選定・活用・開発や学習過程の工夫について研究を進めた。
小樽市学校体育研究会	交流団体	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研究授業を小・中各1回開催し、多くの会員の参加により初任者段階等の若手教員の研鑽の場となった。
小樽英語教育研究会	交流団体	大学教授によるオンライン研修と中学校教諭による小学校での研究授業を行い、子どもが主体的に学ぶ授業の在り方と評価、小中一貫の指導等について研究を深めた。

第13次研究1年次「公開検証授業会」を開催しました

昨年度コロナウイルス感染症の影響でリモートでしかできなかった研究所の研究主題の解明に向けた検証授業が、今年度集合型で所内2回(奥沢小太田淳研究員～6年算数)、山の手小安藤恵研究員～4年国語)、全市公開1回(潮見台小平口山立治研究員～6年算数)実施することができました。

この度は、令和4年12月16日(金)に潮見台小学校で行われた全市公開の授業について紹介させていただきます。

なお、本授業と所内検証授業の詳細については研究紀要第48号に掲載されておりますので、ぜひご覧ください。

【平口山研究員の検証授業について(潮見台小学校6年生:算数)】

- 1 単元名 6年生 算数「並べ方と組み合わせ」 8/8時間目
- 2 研究内容

(1)【研究内容1】個別最適な学びの工夫

①視点1:子どもの学習進度や学習到達度に応じた指導方法の工夫

○解決の見通しをもたせ、解決方法を選択する

- ・単元を通して、解決方法の見通しを交流を通して確認したり、関連する既習事項について確認したりする場を必要に応じて設定することにより、より多くの児童が自力解決に向かうことができる。

②視点2:子ども一人一人が自らの学びを発展させたり、探究したりする学習を位置付けた指導方法の工夫

○「なるほど!」「だったら…!?!」視点を明確にした単位時間の振り返り

- ・単位時間でふり返った「なるほど!→学習のポイント」が次時以降の問題解決の方法につながり、「だったら!?!→発展的な考え」と考えたことから新たな問いを見いだすような振り返りができる授業展開を心掛けることで、主体的に学習に取り組む姿を引き出す。

○児童自身の気づきや広がりを生かした適用問題づくり～「グレードアップタイム」の設定

- ・本時で学習したことを生かした問題づくりを行い、それぞれの児童が考えた問題を適用問題として取り組む場を設定することで「この問題ならできそうぞ!」と自らの到達度を知るメタ認知の場につながり、「学習の個性化」と「指導の個別化」としても位置付けられる。

(2)【研究内容2】協働的な学びの工夫

①子どもが異なる考え方を組み合わせ、よりよい学びを生み出すことができる指導方法の工夫

○立場を明確にした交流場面の設定

- ・交流場面において、自分は何の方法で解決したのか、解決はできなかったけどどの考えに近いのかによって、対話を通しての深まりが変わってくる。ハンドサインやネームプレートを活用した交流場面を設定することで、自分の立場を明確にした交流を位置付ける。

○「伝えたい」「聞きたい」「確かめたい」からこそ自ら動き出す、自然発生的な小集団交流

- ・児童自身に生まれる「自分の考えをもてたから伝えたい!」「困っているから聞きたい!」「自分と同じ考えや違う考えの友達がいるか確かめたい!」という思いを大切にしたいと考えている。このような思いは、教師側から制限してしまうことで即座に止まってしまうことがあり、それは児童の主体性を奪いかねないとも考える。

○児童の思考・発言をつなげる全体交流のコーディネート

- ・深い学びを実現するためには、児童の思考や発言が繋がっていくことが必要である。そのために、自力解決時・小交流時の児童のノートや発言を机間巡視を通して見取り、指名順などを考慮したまとめまでの道筋をイメージしておけるようにする。また、必要に応じて「～ってどういうこと?」「今の○○さんの発言、どう思う?」など問い返し、ペアで交流させたりする場を設定し、学びを深めるためのコーディネートを心がけていく。



<本時の流れ>

【前時想起】

- ・並べ方や組み合わせを整理する方法について確認

【問題提示】

- ・「先生とみんなでじゃんけんをします。3回連続勝てるかな」

【問いの発見】

- ・「3連続する確率はどうやって求められる?」

【見通し】

- ・「簡単な場合から確認し、解決方法の見通しをもつ」⇄交流

【課題解決】

- ・自力解決→小集団
- ・解決場面・交流場面を分断せず、自然な対話を通して理解を深めていくよう留意する

【全体交流】

【まとめ】

- ・全部で何通りあるのかと、条件を満たすものがいくつあるかが分かれれば確率を求められる

【適用問題】

- ・「グレードアップタイム」各児童が本時の学習で学んだことを生かした問題づくりを行い、相互に取り組む

【振り返り】

- ・「なるほど!」「だったら!?!」

教育研究所情報

令和4年度教育研究所の主な活動の歩み

教職員研修の充実にかかわる内容

- 1 研究員による教育研究の推進
 - 研究員会議を中心とした研究活動
(令和3年6月～令和4年3月, 9回の開催)
 - 検証授業の実施
(3回～小学校国語・算数)
 - 研究紀要第48号の発行 (3月末90部発行)
- 2 調査研究活動事業の推進
 - 研究推進校・推進団体 (10校・1団体)
 - 研究交流校・交流団体 (3校・5団体)
 - 公開研究会・公開授業の実施
(13校・6団体)
 - 教育講演会・講習会などの開催
(5校・2団体)
 - 市外公開研究会・実践発表会等への参加
(1校1団体, 参加3名)
 - 研修発表会の開催 (1月13日)
 - 研究集録の発行 (3月末60部発行)
- 3 研修講座の開催
 - 環境教育研修講座『新版小学校理科教材おたるの自然(デジタル版)』を通して(R4.8.3)
(参加21名)
 - 公開検証授業会(R4.12.16) (参加24名)
- 4 所報「環流」の発行(6, 9, 12, 3月)各号100部程度作成(教職員へはデータ送信)
 - 第181号「第13次研究について, 初任者・研究員の紹介」他
 - 第182号「環境教育研修講座等の紹介」他
 - 第183号「研究交流団体の実践紹介: 小樽市道徳教育研究会」他
 - 第184号「調査研究活動事業研究指定校・団体研修発表会, 公開検証授業会」他
- 5 研究図書及び資料の収集と整備, 活用促進
 - 資料の収集
 - 研究図書の購入 85冊
 - 研究図書の貸出 80冊
 - 指導案データの作成, 発行

教育活動の充実にかかわる内容

- 1 学力検査の奨励
 - 標準学力調査
小学校3・5学年2教科 1,230名
中学校2学年3教科 635名
- 2 社会科副読本の活用の促進
 - 小学校社会副読本「わたしたちの小樽」及び『わたしたちの小樽』活用の手引き
令和4・5年度版を小学3年生に配布
- 3 理科教材の活用の促進
 - 新版小学校理科教材「おたるの自然」
・デジタル版の配信
・「活用の手引き」の配布
- 4 ふるさと学習の促進
 - 「教材『小樽の歴史』」を小学5年生児童全員及び中学校に1冊配布
- 5 ICT支援員の活用
 - ICT支援 すべての小中学校 延べ49回
 - 情報モラル教室 20校 延べ29回49時間

教育相談の充実にかかわる内容

- 1 電話・来所・メール相談活動の実施
 - 相談件数 38件 38回
・電話相談 37件 37回
・来所相談 1件 1回
・メール相談 0件 0回
- 2 スクールソーシャルワーカー(SSW)の配置と学校への支援
 - 対応した学校 小学校7校, 中学校6校
 - 支援の対象となった児童生徒 23名
 - 家庭への訪問回数 1回
 - ケース会議の回数 1回
 - 研修会の参加
・SSW連絡協議会・SSW地域別研修会
・いじめ問題対策連絡協議会
・不登校対策連絡協議会 等々

※上記の数値は令和5年2末日現在を基本としています。

編集後記

新型コロナウイルス感染症が流行して4年目に入り, 未だ終息の目処はたっておりませんが, 各学校・団体では様々な対策や工夫を講じながら研究を止めない取組を進めております。本研究所においても, 2年ぶりに集合型で検証授業を行い, 全市公開の際には多くの方々に来ていただき貴重なご意見やご示唆等を受け, 研究の充実を図ることができました。今後も教育の潮流や本市の課題を踏まえ, 子どもの健全育成に向けた取組を進めてまいりたいと思います。